

シンポジウム

「社会人が大学の門をくぐる時 PART-2」

日 時：2011年2月5日（土）

午後1時30分～4時

会 場：交流ラウンジ

2007年に開催したシンポジウム「社会人が大学の門のくぐるとき」のまとめとして『女性たちの大学院』（須藤八千代・渋谷典子編著、生活書院、2009年）が刊行された。この書籍から発展させ、事例報告者に男性も参画し、大学・大学院の門をくぐる決心をした社会人学生にとっての「学び」をテーマにブックトークを開催した。

コーディネーター／須藤八千代（愛知県立大学教授）
パネリスト／石井浩、石河敦子、大城純男、真野敏子

参加人数／77人（女性 61人、男性 16人）

参加費／500円



ご意見ご感想をいただきました

- ・「大学にあるのは大きな自由である」という須藤先生の言葉が印象的でした。何を研究しても良い。研究する自由がある。一だからこそ「何をしたいのか」を問い合わせ持つことは重要だと思った。自分の大学院生活について改めて考える機会になった。
- ・実際に大学院の“生”的お話をきけて、今後の自分の活動の参考になると思います。
- ・比較的高年齢で大学院に行かれた方がいて驚きました。現在、育児、家事、仕事に忙しい毎日ですが、仕事や育児の経験をもとに、いつか研究ができたらいいなと思っています。
- ・実体験が多く語られていたため、大学、大学院入学によって得られること、得られないものがよくわかりました。知の探求は大学、大学院だけでできる事と限定されていないと感じたので、できることから始めたいと思います。
- ・それぞれの方のバックグラウンドもよくわかり、学問に対する姿勢がよく伝わってきたと思います。



プランなごや 21

目標1：意思決定・政策立案過程への女性の参画

目標3：男女平等・男女の自立のための意識改革



名古屋市男女平等参画推進センター 指定管理者
N P O 法人参画プラネット